

難読症と言語理解の諸問題

山田 純
(総合科学部)



難読症は、状態の一種で病名ではない。難読児は、埋もれた宝石であり、磨けば輝く宝物であり、見つけだして磨くことは、本人はもとより日本の社会にとってもきわめて大事なことだ。

難読児は右脳型人間が多いようで、美術、音楽、技術、メカなどに強い場合が少なくない。

難読症にへこたれることなく、ほかの才能を伸ばして世に貢献した例も多い。たとえば、イギリスの環境大臣であるマイケル・ヘゼルタインやロンドン大学の数学者 カルピス・ジャンソンズや女優のスーザン・ハンブシャーといった人々で、過去においては、発明王エジソンや物理学者のアインシュタインや詩人のイエーツもそうだったと言われている。

難読児はユックリスト、私たちはセツカチストと言えるかもしれない。セツカチ型の流儀をあまり押しつけないことが肝要だと言える。

難読症の症例から

発達性難読症は、知能が平均の範囲内にあり、ほかに身体的環境的な異常がないにもかかわらず、読み書きが十分にできない状態をいう。その概要については、筆者らの教育活動がテレビや新聞などで報道されたし、本誌(一九九二年二十四期四号)でも述べたのでご存知の方もおられるだろう。

また、実践報告としては、マツダ財団の研究助成により「難読児のための手引書」を発行し、無料頒布している。希望される場合は、総合科学部難読相談室までお知らせいただきたい。ただし、学外の場合は、宛名明記の返信用大型封筒(二七〇円切手添付)を同封の上、同相談室に請求されたい。

ここでは、難読の具体的な内容を少し紹介し、さらに応用問題として英語教育について述べたい。

【症例】

S君は、十二歳。右利きで、生育歴・既往歴ともに特記事項なし。主訴は、極度の難読と書字困難。知能検査(WISC-R)の結果、言語性知能が一一五、動作性知能が八六、全体では九八で、平均的であった。繊細なセンスの持ち主で、IQが示す以上に聡明であるという印象を受けた。

つまり、WISC-Rなどは、S君の知能を過小評価していると思われた。発話と発話理解はまったく問題なし。しかし、小学校六年生で、音読速度は小学校一年程度であり、教育漢字(当時九九六字)のうち、時間のプレッシャーがない場合でも、読める字は半分以下と推定された。

そこで、小学校四年配当漢字を中心に約三百字の漢字を個別に提示し、その誤反応を調べた。その結果、表1に示すような特徴が明らかになった。

表1 S君の誤反応例

刺激漢字	反応
意味的誤り	
1 望	春院
2 医	寒い
3 冷	
視覚的誤り	
4 競	意発
5 登	
選択的誤り	
6 季	節真
7 写	

これは、表2に示すように、英語を母語とする後天性深層難読症患者の誤反応に類似している。
S君は、文字(群)の一部から対応する語句を想起し、それを分割するが、その中から該当する音形を正しく選択できないようである。たとえば、「炭」を「石」と反応した。これは、「炭」から「石炭」を想起し、誤って前者の「石」を選択してそれを訓読みしたと考えられる。
あるいは、「輪」を「丸い」と反応したこともある。これは、はじめは意味的誤りだろうと思われた。ところが、S君の国語の教科書を調べてみると、二か月前に学習した単元に、なんと「丸い輪のように」という表現があり、S君は、四苦八苦それを勉強していたのであった。

表2 英語を母語とする後天性深層難読症患者の誤反応例

刺激語	反応
意味的誤り	
1 dad	father
2 liberty	freedom
3 tulip	crocus
視覚的誤り	
4 life	wife
5 charm	chair
選択的誤り	
6 merry	Christmas
7 dial	sun

大学生と英語教育

S君の読みの特徴は、遅読である。正しく読める場合も非常に反応が遅い。そのために、読解が阻害される。

一般に反応遅延は、言語理解の致命的な阻害要因である。ここでは、平成四年度に卒業した榊敏江さん(現在、飯塚市役所勤務)の研究から、広大学生の英単語の聞き取りと英語聴解力の関係を見てみよう。CELTという聴解力テストの低位群一〇名と上位群一〇名を被験者とし、オーディオ・テキストスコープで、高頻度語と低頻度語を聴覚提示し、提示終了後からその語が認知できるまでの反応時間を測定した。結果は、図1のとおりであった。

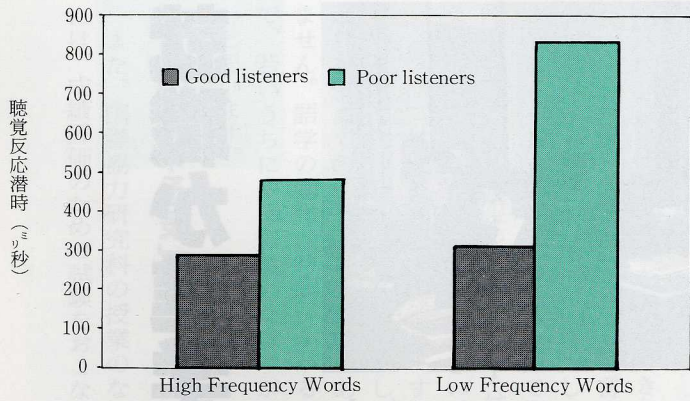


図1 英単語の聴覚反応潜時
(高頻度語は bicycle, children, church など)
(低頻度語は baker, channel, yacht など)

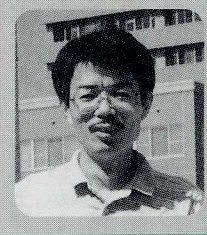
低頻度語といっても、実際は、しばしば使用される語ばかりだ。そのような語を認知するのに一・二秒以上(八三〇秒)に語自体の継続時間の約四〇〇秒を加算)もかかっていたのでは、通常の発話を理解するのは不可能である。通常の発話は、分速一五〇語くらい、場合によってはその倍くらいの速さになり、上位群も、図1に示す速度では通常の発話についていけない。英語の母語話者は、このような実験をするに、提示された語が言い終わらないうちにその語を認知する。したがって、図1では、マイナスの値が出る。
一般的に、大学生は英語を読むことならできると言われているが、これは、ごく一部の例外的な学生を除き事実には反する。ほとんどの大学生は、英語は超遅読であり、読めるとは言えず、難読状態にある。
個々の英単語をタキストスコープで視覚提示すると、七〇〇秒以上かかる語が大半である。
では、どうすればよいか。有意味度の高い文脈の中で、耳から目から過剰学習する以外にない。しかし、ランダムに学習してよいのか、精選した教材を学習すべきなのか、さらには、第三者による説明・解説に依拠して学習を進めるべきか、帰納的に学習すべきなのか、これらは今のところよくわからない。

特定の音素(最小言語単位)や音節の頻度が語の認知に影響を与えるという報告がある。最適な語群の組み合わせがあつてそうなっているのだろう。母語学習では自然的にそれが子どもの耳に提供されているのかもしれない。
いざれにせよ、難読児に対してであれ、学生に対してであれ、言語を教えるということはきわめてむずかしいが、同時に、大事なことであり、チャレンジングなことである。

プロフィール

- ◆(やまだ・じゅん)
- ◆一九五一年生まれ
- ◆専門は心理言語学

総合科学部難読相談室で、電話や手紙などで全国から相談を受ける。具体的な助言ができず、非力ぶりに悩むこともあるが、少しずつ前進していることも確かである。難読児の親や教師に対して、一日も早く、科学的で効果的な助言と指導ができるようにがんばりたい。



★投稿規定

- 一、文字数は二千字以内とします(図・写真は、一枚を二百字と換算)。原稿は、原則としてMS-DOSのテキストファイルのフロッピーディスクに記入し、ハードコピーと図表を別途添付してください。
 - 二、本文には、四百字程度で小見出しをつけてください。
 - 三、原稿は原則として掲載します。ただし、特定の個人及び団体を誹ぼう中傷する原稿または本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は、掲載しません。
 - 四、採否は広報委員会が決定します。
 - 五、提出された原稿は、掲載の有無にかかわらず、返却いたしません。
- ★本号から「二〇〇字の世界」シリーズが始まりました。執筆陣は皆様のご期待に十分応えることのできるよう、このシリーズをはじめ、投稿、「名譽教授だより」など皆さんの原稿をお待ちしております。なお、次号は、退職者特集号として二月中旬に発刊される予定です。

- ### 広大生協ベストセラー・トップ・テン
- ①松本 松本人志 朝日新聞社
 - ②ソフィーの世界 ヨースタイン・ゴルド NHK出版
 - ③星の輝き(出) シドニイ・シエルダン アカデミー出版
 - ④ターウィン以来 スティーブン・J・ゴールド ハヤカワ文庫
 - ⑤星の輝き(下) シドニイ・シエルダン アカデミー出版
 - ⑥やさしさの精神病理 大平 健 岩波新書
 - ⑦「世界」主要論文選 井出孫六 他編 岩波書店
 - ⑧パラサイト・イヴ 瀬名秀明 角川書店
 - ⑨伸助のサルでもわかるニュース Part3 よみうりテレビ編 実業之日本社
 - ⑩ゴーマニズム宣言差別論スペシャル 小林よしのり 解放出版社 (広大生協調べ)